

MODERN JAPANESE

An Advanced Reader

Gen Itasaka
Seiichi Makino
Kikuko Yamashita

上級日本語読本 上巻

VOLUME I

Text

MODERN JAPANESE

An Advanced Reader

Gen Itasaka
Seiichi Makino
Kikuko Yamashita

VOLUME I
Text

KODANSHA INTERNATIONAL
Tokyo and New York

*Distributed in the United States by Kodansha International/USA Ltd., 114
Fifth Avenue, New York, New York 10011.*

Published by Kodansha International Ltd., 17-14, Otowa 1-chome,
Bunkyo-ku, Tokyo 112 and Kodansha International/USA Ltd.
Copyright © in Japan 1974 by Kodansha International Ltd.
All rights reserved. Printed in Japan.

LCC 73-89698

ISBN 0-87011-222-8

ISBN 4-7700-0426-5 (in Japan)

First edition, 1974

Seventh printing, 1990

まえがき

本教科書は、本来、Harvard 大学において、*Modern Japanese: A Basic Reader* (ed. by H. Hibbett & G. Itasaka) を終った学生のための上級コース用として準備された教材を中心に編集されたものである。出版にさきだつて、われわれは謄写版の edition を作成し、試験的に諸大学（北米ならびにメキシコ）の教室で使用し、その結果を参考にして改訂を加えた。

現 edition の出版にあたっては、さらに、独習者の便も考慮して語彙・文法説明に増補を行なった。したがって、初歩の漢字テキストを読み終った人には、辞書の助けをあまり必要としないで、独習できるものと信じる。

テキストの内容については、社会・政治・経済・文化・言語などの諸方面にわたって、現代日本を理解するうえに最も適当と思われる資料を選んだ。また、六十年代に日本語はかなりの変化を示しているため、資料の書かれた時期をできるだけ六十年代のものとした。

最後に採録を許可された諸著者、改訂のために試験的に使用して下さった諸大学、そして特に編集にあたって絶大の努力を払われた一場・サザランドの両氏に対して深甚の謝意を捧げる。

G.I. S.M. K.Y.

目 次

1	イモ洗いとムギ拾い	1
2	後進国援助の特効薬三つ	4
3	話しことばにおける日本人の論理	8
4	「都市の日本人」を書いた頃のこと	18
5	母 の 話	23
6	教 育 熱 心	27
7	政 治 力	31
8	満座の中でお笑い下さっても……	39
9	「なる」の論理	43
10	義理・人情の世界	49
11	ふ ろ の 効 用	53
12	チェンバレン著『日本ふうのもの』	58
13	肇めに文字あり	66
14	日 本 と 西 洋	73
15	結婚観の変遷(抄)	80
16	明治維新と壬申戸籍	87
17	家 元 制 度	97
18	これからの日本は農業なんか止めて外 国から安い食料を買えばよいというが	109
19	日本語のテンス	133
20	れる・られる	136

1 イモ洗いとムギ拾い

ふつう、文化というと、ドイツ流の文化哲学の影響を受けて、人間精神の創造的産物といった高い次元の現象を考えがちだ。しかし、生活という基礎的な次元から考えるほうがより機能的でもあるし、社会学的ではないだろうか。「文化とは、ある社会のなかでみずからの手によって創られ、個体に分有され、社会によって伝承される生活様式」という考え方だ。

生活という現象のなかでとらえていくならば、動物社会のなかにも文化的現象が当然見られてもよいはずだ。ただ、文化と
いいきってしまうと、ドイツ流の固定観念にひっかかったり、
誤解されたりするおそれがあるので、文化的行動ということば
をつかっていくことにしよう。

ニホンザルの文化的行動として、もっとも有名なのは、幸島の群れのものだろう。1953年のこと、ひょっとしたことから1歳半になるメスザルが、イモについた砂を水で洗って食べることを覚えた。この行動は母親からきょうだいや仲間を通じてしだいに群れに伝播し、10年後には、2歳以上のサルうちの73パーセントまでが海水でイモ洗いをするようになった。

イモ洗いの伝播についていくつか注目すべきことをあげると、

2 上級日本語読本(上巻)

第一には、伝播の仕方だ。最初の5年間、この行動は、血縁や仲間という個人関係のチャンネルを通じて伝わっていった。若いサルは、弾力性が強いから早く覚える。したがって、伝播は子どもから母親へというルートを通じて行なわれる。

- 5 6年目あたりからは、伝播の様式がちがってくる。イモ洗いを覚えたメスの子どもが、成長して赤ん坊を持つようになる。赤ん坊たちは、生まれ落ちたときから、母親のイモ洗い行動に親しんでいる。そして、2歳にもなると、新しい世代の子どもは、みんなイモ洗いを覚えるようになっていく。だから、第1
- 10 期の伝播様式を個別的伝播とよぶならば、第2期のそれは、まさに「社会によって伝承される」文化的な伝播ということができる。

つぎに、イモの洗い方にも変化ができてきた。初期の連中は、まるでたわしでこするようにみごとに手でイモをこすって砂を

15 落とす。ところが、後期になると、ひと口かじっては、イモを海水につけるというやりかたに変わってきた。どうやら、塩味をつけて食べることを覚えたらしいのだ。イモ洗いというよりも、味つけ行動といったほうがいいかもしれない。

もうひとつ、おもしろい文化的行動がある。それは、砂金採

20 集法とよばれている行動だ。海岸にまかれたムギは砂まみれだし、砂にめりこんだのをひとつずつ拾って食べるのはたいへん非能率的だ。そこで、ムギを砂ごと手でかきよせ、両手で持って海辺にいき、海の中に砂を投げすてる。すると、ムギはきれ

いに洗われているし、たいへん拾いやすい。この行動は、砂金の選鉱法に似ているので、砂金採集法と名づけられた。この行動の創始者は、まえのイモ洗いの発明者であるイモと名づけられたメスだ。この行動も、つぎつぎと伝播し、4年後には19頭のサルが行なうようになった。

5

オトナは保守的で、こうした新しい行動を覚えるのが非常に困難らしい。ここでゆかいなことが起こった。メスガシラのエバや、その長女のサンゴといった強いメスたちは、自分で砂金採集法ができないので、他のサルの仕事を利用することを覚えた。たとえば、サンゴは、少女ザルが砂を集めるのをじっと見ている。そして、少女が海中に砂を投げるやいなや、はげしく攻撃して追いはらい、浅瀬のムギをよこどりして食べるのだ。

10

労働と搾取の起源にくっつけるつもりはないが、この行動は、かなり意味深いものをもっている。つまり、他のものの労働による結果を勞せずして利用するということで、ニホンザルの行動では、これに類する行動はほかのことではまだ見られていない。

15

イモ洗いと砂金採集行動に共通した現象は、若いサルは、どんどん新しい行動を身につけていくが、オトナのサルは、それができないということだ。オトナは保守的で、新しい習慣を開発していくことができないというのも思えば愉快である。

20

2 後進国援助の特効薬三つ

第一は農地改革の断行

いま世界に 100 以上の後進国があります。それらを一括して見ることは、それぞれ事情が異なっているので、たいへん困難なことです。しかし、近代化のために、ということで総括して
5 みると、結局つぎの 3 点に帰するのではないかと思います。

その第一は、農地改革です。農地解放が非常にうまくいった国は日本、そして台湾と朝鮮です。最近ではイランが、王様が先頭に立ってのたいへんめずらしい農地改革をやったのけまし
10 た。

ネパールでは、庄園であるビルタの廃止を国会が議決して貴族がまき返し、王様自らのクーデターをやって、首相らを牢につなぎました。しかし、最近では、国王親政のもとでも、やはりビルタ解放に向かっています。時代の流れには逆行できない
15 のです。インドの農地解放は、インド人の専門家に聞いたところ、半日演説を聞かされました。しかしその話の筋はよくわかりませんでした。それもそのはずです。単に複雑なだけでなく、内容の実施がひどくゆがめられている現状だからです。

農地改革の成功の結果とっては間違いかもしれませんが、

たとえば台湾の食料状態というか、栄養の状態は、日本よりすぐれています。また最近のイランでは、農民にやる気が出てきています。もちろん農地改革を資本主義社会として進めるか、社会主義社会として進めるかによって差は出てくるわけですが、後進国の政情や未来をうらなうのに、まず農地改革という一点 5
が共通のものとしてあるといえます。

第二は小学校教育の普及

インドの民衆のように、百までの数がろくろく勘定もできないというようなことでは、近代化ははなはだむずかしい。これはことばがむずかしいせいもありますが、たとえば給料をもら 10
っても、それが正しく計算されているかどうか全然わからない連中がたくさんあります。支払分をごまかしても、チップとして渡せば喜んで満足した例を見たときには、まったく考えこまされたものでした。

このような民衆を抱えていては、社会の近代化はたいへんむ 15
ずかしいことに相違ありません。工業化の話も、農業の生産増加の方式も、あるいはバース・コントロールでも、結局は民衆の知的水準の高さで条件づけられてしまいます。指導者だけで国の進歩ができると考えるのは単なる幻覚でしょう。

そこをところを日本と比較するといいサゼッションが出るか 20
もしれません。日本は明治がはじまったとき、国民の普通教育の普及率が40パーセントといわれています。そして明治時代に

6 上級日本語読本(上巻)

多数の篤農家が各地に続出して、現在の稲の品種のもとになった神力・愛国などをつくり上げたのです。それを試験場が近代的に交配して、今日の品種ができ上がっています。つまり、日本の明治は篤農家が農業を指導した時代であるといえます。その篤農家の出現ということの背後には、普及するために重要な手段である字というものを、彼らはみな書くことができたという事実があります。

どうもいまの後進国の農業増産政策には、大学の研究室のプランそのままみたいのが多く、篤農家はおろか、農家一般との接触がにぶいのが普通になっています。これは両者間に、余りに大きい知的水準の差異があるのがいちばん大きい原因でしょう。

結局、小学校教育が後進国でどれほど普及しているかが、その国の長期的な運命を予測するための重要な条件であると確信できます。

第三は外資導入の推進

外資導入については、いままで後進国で味わった苦い経験がたくさんあります。とくにラテンアメリカにおけるアメリカ資本のための被害ははなはだしいものがあったのを初めとして、外資が民族産業をつぶした例などいくらでもあります。

しかし、さきにも述べたように、国内資本がそろって逃げ出すよりは、外資がはいったほうがいいのです。外資ということ

ばが悪ければ、工場誘致というふう置きかえてもよろしい。日本では、東京や大阪にある大会社に、後進の地方各府県の知事や総務部長が、その地元に工場を建ててくれるように頼んで回っていますが、ちょうどこういう形の工場誘致、つまり資本も技術も経営能力もたよった方式、あるいはそれは規制調節した方式の外資導入が国際間で行なわれれば、それは後進国の近代化に大きな役割を果たすだろうと思われま

しかし現状では、それとまったく反対の態度をとっている後進国や、それに近い態度をとっている後進国など、いろいろあるわけですが、その結果の差はこれから10年もすればかなりはつきりと出てくるに相違ありません。外資が後進国でひどいことをしたという例はこれまでたくさんあるにもかかわらず、これからは、やはりその果たす役割は非常に大きなものに違いありません。

以上この三つの方式を万能薬のように考えて、100余国の後進国にそれを当てはめてみると、今後その国が伸びるかどうかが大体予測できるのではないだろうか。私はこう思うわけです。

「アジア文化探検」(講談社現代新書139)、

中尾 佐助、講談社、1968

3 話しことばにおける日本人の論理

相手中心の論理

- 日本人的話し方は、「相手中心の論理」ということになる。対人関係や社交の場面で、相手の気を悪くさせないことは初歩的
- 5 原則である。その点では日本語の話し方は理想的である。常に相手の顔色を見ながら話をすすめる。あるセンテンスが肯定で結ばれるか、否定で結ばれるか、あるいは疑問形で結ばれるかは、とことん、話の最後にならなければわからない。「この際、大鵬には退陣してもらい……」実は“退陣してもらいたい”と
- 10 言いたいところだったが、相手がいかに大鵬ファンの顔色だったので、文末で「……もらいたくないものですね」と主旨をかえることもできる。あるいは「……退陣してもらいたいという人もあります」などと、最後のところで他人の意見のように、すりかえることもできる。悪くいえば自主性のない話し
- 15 方ということになるが、社交の場面では、別に自分のオピニオンを通さなければならぬということもないのである。

英語ならば、最初にイエスとかノウとか、あるいはイズとかイズ・ノットで肯定か否定かが決まってしまうのだが、日本語では、文末へきて、はじめて「である」のか「でない」のかが決

まる。また疑問の場合でも、英語なら文頭に疑問代名詞がくるか、主語と述語が転倒することでハッキリするが、日本語では最後に「か」がつくことによつてきまる。こういう日本語の文法は、文法が先にあったのではなく、われわれの祖先が、こういう話し方をしていたからである。

このように、文末で意味を決める話し方は、日本の封建性からきているという考え方も成り立つ。上位の人の顔色をうかがいながら、文末で「ある」といったり、あるいは、ムニャムニャと語尾をにごすという逃げ方をする。しいたげられた者の自己防衛的話し方だという見方である。しかし、いちがいにそうともいえない。上位の者も、下の者の立場を考えて、語尾で意味を逆転させることも、しばしばある。

金田一春彦氏は、『大岡政談・天一坊の巻』からおもしろい例を引いておられる。将軍吉宗が、大岡越前守の功を賞し、松平伊豆守以下幕閣の前で、「ウム越前、よう調べが届いた。その方なくば天下の一大事にも及ぶところ、幸にこれをのがれしはあつばれなはたらき、伊豆、その方はじめ城代、所司代、老中一同心づいた儀ではあ……」

吉宗は「あるまい」というつもりであったが、もしそういってしまえば、伊豆守以下の身にかかわる。そこで文末を「あろう」と、否定を肯定にすりかえた。これは下位の者が上位者の顔色をうかがうといった事情ではない。相手方の気持を尊重する話し方である。

このように相手の立場に立つ話し方は、アメリカでもしきりに提出されている。またレアドなども「ノウ」といわなければならないときも、できるだけ相手の立場を傷つけないようにいなければならないと力説している。アメリカで、
5 相手の立場に立つ話し方が、やかましくいわれているということは、アメリカでは自己中心的な話し方が横行しているからであろう。その点では、日本の話し方は、実情のうえからも、文法のうえからも、まことに相手中心の論理である。

あいまいの論理

- 10 相手を尊重するというのは、優れた国民性だと思うのだが、お互いにかばいあうということから、いつの間にかなれ合いの関係が生まれてくる。おおよそのところで妥協できるように、あいまいな表現をとることになる。この話し方が外国人には、なかなか理解しにくいようだ。外国人が、日本人を論理的でな
15 いと評するのも、この話し方に原因するところが多いと思う。あまり、はっきり論理的に言い切ってしまうと、あとでナーナーの妥協がしにくくなる。とかく論理的な話し方には温か味がない。あまり論理的に発言すると、ものに角がたつ。そこで、つい非論理的な、あいまいな話し方になってしまうのである。
20 “あいまいの論理”とでもいうべきか。

あいまいなものの言い方をするから、原因と結果の関係を明確にすることを避けることになる。したがって原因を示す「だ

から」とか「から」「ゆえに」「それゆえ」などということばを使ったがらないと大出晁氏は指摘する。それらの接続語を使うことは、背後の論理的原因を表現することであって、いかにも押しつけがましい感じを相手に与えるのである。金田一氏はこの点についても適切な例をあげておられる。すなわち、「電車が故障しましたから、遅刻しました」とあやまるのは、すべての原因は電車にあり、とばかりに論理的主張をしているようで角が立つ。

「電車が故障しましたので、遅刻しました」といえば、いくらかやわらかくなる。「ので」は「から」よりも因果関係が少し薄い感じである。もっと論理性を薄めれば、「電車が故障して、遅刻しました」というような言い方になり、一番角がたたない。

つまり、前後を結ぶ接続語を、できるだけ結びつきの弱いことばに置きかえようとするのが、日本語の話し方の特色であり、そうした日本人の性格がよくあらわれている。接続語を、だんだん前後の結びつきの弱い方向に置きかえる傾向を押し進めると、結局は接続語をやめてしまうことになる。接続語を省略する話し方、これが余韻のある日本人的話し方でもある。日本人のおとなの話し方だともいえる。

子どもの話し方には、やたらに接続語がとびだす。小学校低学年の作文によく表われている。

「けさは、おかあさんが“起きなさい”といったので、早起

- きました。それから顔を洗って、そしてごはんをたべました。遊びにいこうとしたら、弟が“ぼくもつれてって”といいましたから、つれていってやりました。ポチもワンワンとほえて、行きたがりましたから、それでポチもつれていきました。』とい
- 5 った調子である。これは書きことばであるが、話しことばの場でも、似たりよったりで、子どもの話しことばには接続語が多い。上の作文でもわかるように原因と結果が、論理的にハッキリしている。日本人のおとなからみると、このような発言は、実に幼稚で、余韻がないように感じられるのである。
- 10 西洋画が、カンバスのすみずみまで色彩で塗りつぶされているのに対し、日本画は余白があるのが特色である。西欧の話し方が、接続詞や関係代名詞を使って論理的系統的に、緻密に語られるのに対し、日本語の話し方は接続詞を省略し、主語を省略し、ときには結果を述べるのに原因を省略したり、原因だけ
- 15 述べて結果を省略したりする。まことに日本画的な話し方である。さきほどの「電車が故障しましたから、遅刻しました」というのを、ただ「電車が故障しました」という言い方である。「だから遅刻しました」というところは省略し、相手に想像してもらうのである。
- 20 別れに際して「さようなら」というのは、おそらく、「さよう、しからは、これにて失礼仕る」を省略した余韻あることばなのだろう。

このごろの若い人同士の別れのあいさつは、ほとんど「さよ